ＮＰＯ／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

第９回通常総会議事録

第一号議案　議長の選任

第二号議案　放送批評懇談会 2012 年度事業報告

第三号議案　放送批評懇談会 2012 年度収支決算

第四号議案　放送批評懇談会 2013 年度事業計画

第五号議案　放送批評懇談会 2013 年度収支予算

放送批評懇談会

２０１３年６月１６日

特定非営利活動法人放送批評懇談会

＜第９回通常総会＞

■開催日　　２０１３年6月１６日

■会　場　　スバルビル　スバルホール

■会　勢　　＜正会員＞
１９５名　（入会２３名、退会８名）
＜維持会員＞
１３７社　（入会７社、退会２社）

■出席者　　２９名
飯田みか　市村 元　入江たのし　碓井広義
小田桐誠　音 好宏　小原道雄　隈部紀生
五井千鶴子　上滝徹也　小玉美意子　小林 毅
坂本 衛　桜井聖子　嶋田親一　鈴木嘉一
滝野俊一　田中典子　中島好登　中町綾子
信井文夫　橋本 隆　稗田政憲　藤田高弘
藤田真文　藤久ミネ　三原 治　吉川邦夫
渡辺久哲

■委任状提出者　７９名

■出席予定者と委任状提出者で計１０８名

第一号議案　議長の選任

定款第２７条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員のなかから、「三原治」氏を合議により選出。

第二号議案

放送批評懇談会

２０１２年度事業報告

２０１２年度総務事業報告

１．５０周年記念事業
５０周年委員会をバックアップし、５０周年の各事業に取り組みました。

２．志賀信夫賞の選考
第４回志賀信夫賞の選考を行いました。正会員による候補者推薦を受け、選考委員会で選考を行い、株式会社ビデオプロモーション取締役名誉会長の藤田潔さんとＴＢＳ「調査情報」の、お一人と一団体を選出し、６月３日第５０回ギャラクシー賞贈賞式で賞状と盾をお贈りしました。
選考委員会：音 好宏（委員長）　橋本 隆　上滝徹也　小田桐 誠　藤田真文

３．放送批評懇談会新英文表記
会の英文表記を、新名称の ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS に差し替える作業を行いました。

４．第１２回「日韓中テレビ制作者フォーラム慶州大会」
２０１２年１０月１１日～１４日、韓国慶州（キョンジュ）で開催された第１２回大会「日韓中テレビ制作者フォーラム慶州大会」の実行に、放送人の会、放送番組センターとともにあたりました。この大会に正会員２名を派遣し、大会の成功に寄与しました。参加者は、韓国８５名、中国２２名、日本４２名でした。

５．志賀信夫さんをしのぶ会
２０１２年１０月２９日、前理事長で前名誉会長の志賀信夫さんが肺炎のため都内の病院で死去されました。１２月８日、放送批評懇談会の主催による「志賀信夫さんをしのぶ会」を、日本プレスセンターで執り行いました。約１５０名が参集して献花を行いました。費用は会費で賄い、不足分は放送批評懇談会が負担しました。

２０１２年度出版編集事業報告

１．昨年度は下記のメンバーで運営しました。

委員長	飯田みか
副委員長	川喜田 尚
委員	古賀靖典　鈴木健司　高瀬 毅　高野美穂 田川義博　仲宇佐ゆり　原由美子 吉川邦夫（2013 年 2 月～）　渡辺久哲
編集スタッフ	中島好登　福島美子　髙橋秀樹（～2012 年 11 月）　廣保里栄（2012 年 11 月～）

２．毎月６日に『ＧＡＬＡＣ』を発行しました。

１）本年度は下記のテーマで特集を組みました。

2012 年 10 月号	ナレーション考
2012 年 11 月号	オリンピックとメディア 2012
2012 年 12 月号	世界のテレビ賞に挑め
2013 年１月号	第 50 回上期ギャラクシー賞／ テレビ 60 年　テレビを語る書物たち
2013 年２月号	「報道活動」の意義を考える
2013 年３月号	選挙報道を問う
2013 年４月号	独立局のサバイバル術
2013 年５月号	イマドキ若者のメディア観
2013 年６月号	スポーツ放送の矜持
2013 年７月号	決定！第 50 回ギャラクシー賞
2013 年８月号	詳報！第 50 回ギャラクシー賞
2013 年９月号	〈放懇 50 年〉 今ふりかえる放送批評の半世紀

２）発行部数は約４０００部を目安としました。

３）2013 年４月号でリニューアルを実施し、連載の入れ替えとデザインの見直しをおこないました。

４）ＮＴＴレゾナント株式会社が運営するニュースサイト「goo ニュース」（http://news.goo.ne.jp/）と、ニフティ株式会社が運営するニュースサイト「@nifty ニュース」（http://news.nifty.com/）に、一部記事を配信しました。

２０１２年度選奨表彰事業報告

１．本年度は下記の委員の構成で運営しました。
選奨事業委員長　藤久ミネ
＜テレビ部門委員会＞
委員長　　丹羽美之
副委員長　中町綾子
委員　　岡田芳枝　河野尚行　滝野俊一　戸田桂太
　　桧山珠美　藤久ミネ　古川柳子　水島宏明
　　宮崎美紀子
＜ラジオ部門委員会＞
委員長　　桜井聖子
副委員長　石原信和
委員　　池本孝慈　茅原良平　近藤倫章　紺野 望
　　武田三千代　塚本 茂　原 きよ　ペリー荻野
　　松浦正和　柳瀬博一　山本 索
＜ＣＭ部門委員会＞
委員長　　五井千鶴子
副委員長　稗田政憲
委員　　秋吉淳一郎　小川幸子　河合良文　草川 衛
　　田家秀樹　田中秋夫　谷岡理香　千葉健吉
　　本庄雅之　茂出木龍太　山家誠一
＜報道活動部門委員会＞
委員長　　鈴木嘉一
副委員長　市村 元
委員　　稲塚秀孝　小原道雄　加来由子　兼高聖雄
　　河邑厚徳　福島俊彦　堀川惠子　堀木卓也
　　宮前周司
＜選奨事業委員会担当事務局＞　福島美子

２．第５０回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。
＜テレビ部門委員会＞
・２０１２年４月から２０１３年３月まで、毎月選考会を開き月間賞４本を選びました。
選考結果を「ＧＡＬＡＣ」誌上に月間賞選評および番組短評一覧として発表しました。毎月２０日を情報解禁日とし、月間賞の選考結果をプレスリリースしました。

・２０１２年9月１３日から２７日、１０月１０日～１８日に、第５０回上期自薦作品１３６本を視聴。１０月２５日、月間賞（２４本）と自薦作品の中から上期入賞作品７本を選出しました。
・２０１３年3月１３日から２９日、４月１０日～１６日に、第５０回下期自薦作品１４９本を視聴。４月２２日、月間賞（２３本）と自薦作品の中から下期入賞作品７本を選出しました。同時に特別賞、個人賞も選びました。

＜ラジオ部門委員会＞
・２０１２年4月から２０１３年3月まで、毎月ラジオ委員会を開催してラジオについての合評を行いました。
・２０１２年１０月、第５０回上期３０本の自薦作品を聴取し、１０月２３、２９日に各部門の上期候補作品を選出。
・２０１３年4月、下期３４本の自薦作品を聴取し、4月１５、１７日に各部門の下期候補作品を選出。
・4月２４日、上期下期をあわせた候補作品の中から入賞作８本を選出し、ＤＪパーソナリティ賞、特別賞も選出しました。
・２０１２年7月７日にニッポン放送イマジンスタジオで「入賞作品を聴いて、語り合う会」を開催しました。

＜ＣＭ部門委員会＞
・２０１２年4月から２０１３年3月まで、毎月委員会を開催してＣＭについての合評を行いました。
・２０１２年１０月２２日、上期１３５本の自薦作品を視聴し、１３本の候補作品を選出。
・２０１３年4月２３日、下期１４５本の自薦作品を視聴し、１３本の候補作品を選出。上期下期合わせた中から１３本の入賞作品を選出しました。

＜報道活動部門委員会＞
・２０１２年１１月３日、上期８本の自薦作を視聴・聴取し、３本の候補作を選出。
・２０１３年4月２０日、下期１５本の自薦作を視聴・聴取し、６本の候補作を選出。上期下期合わせた中から６本の入賞作を選出しました。
・「ＧＡＬＡＣ」連載ページを委員が分担し、全国各地における報道活動の紹介、各局報道活動への期待、特定のテーマに関

する報道活動についての論考などを執筆しました。

・２０１２年１１月１０日、公開シンポジウム「ギャラクシー賞受賞報道活動を見て、制作者と語る会」第５回を、日本大学芸術学部放送学科との共催で実施しました。

３．２０１３年6月３日（月曜日）、ウェスティンホテル東京ギャラクシールームにて「第５０回ギャラクシー賞贈賞式・懇親会」を開催しました。
出席者は報道陣、スタッフも含めて、約８００名でした。

２０１２年度企画開催事業報告

１．２０１２年度の企画事業委員会は、下記の委員で構成しました。

委員長　　碓井広義
副委員長　入江たのし
委員　　安斎茂樹　内田雄一　兼高聖雄　永田俊和
　　中平良磨　藤田高弘

２．２０１３年３月２１日（木）、海運クラブ 2 階ホールで放送批評懇談会シンポジウム２０１３「ローカルパワーの創り方」を開催しました。このシンポジウムは、番組コンテンツから放送外収入まで、ローカル局が抱える課題を取り上げ、これと向き合い、共に検討するものでした。放送というメディアのあり方そのものが問われる時代だからこそ、“ローカル局の明日”へのヒントを探っていこうというのが狙いです。全国各地でさまざまな取り組みを行っている局の方々のプレゼンテーションと活発な意見交換が行われました。

【基調講演】
「デジタル時代（エイジ）の放送哲学
～ローカリズムとデジタルヒューマニズム～」
重延 浩（テレビマンユニオン代表取締役会長）

【特別講演】
「ローカルパワーを応援！
～全国 47 都道府県芸人移住プロジェクト～」
泉 正隆（よしもとクリエイティブエージェンシー
代表取締役副社長）

【プレゼンテーション】ローカルパワーで挑む新ビジネス
「テレビドキュメンタリーの劇場展開」
阿武野勝彦（東海テレビ放送プロデューサー）
「デジタルサイネージで新たな収入構築」
伊藤祐介（北陸朝日放送コンテンツ企画部）
「ローカル発の VOD 事業をリードする」
上杉一紀（北海道テレビ放送取締役）

「独立局コンテンツの“創意工夫”」
　関 佳史（テレビ神奈川編成局長）
「地場産業と歩む放送局」
　陶山賢治（MBC 開発代表取締役社長）

今回のシンポジウムでは、これまでの経費等を再検討することから始め、赤字を出さないことを意識しながら、新たな会場と参加者の目標を設定しました。最終的には、参加者 176 名、273,122 円の黒字となりました。また、アンケートは高い回答率で、全体として好評を得ることが出来ました。

２０１２年度マイベストＴＶ賞

プロジェクト事業報告

１．以下のメンバーで運営しました。
　プロジェクトリーダー　滝野俊一
　メンバー　　石橋さや夏　永田俊和　桧山珠美
　事務局　　中島好登

２．Ｗｅｂ会員の登録者は６４７８名（２０１３年6月１０日現在)。女性が６０７６名と９４％を占めています。

３．投票を活発化させるために、月間投票は別に「旅番組」の特別投票を実施しました。

４．第7回「マイベストＴＶ賞グランプリ」が決定しました。
　Ｗｅｂ会員６１８５名に放送批評懇談会の正会員１９４名が加わり、グランプリの投票にあたりました。
　グランプリは、２０１２年4月度から２０１３年3月度まで投票によって毎月決められたノミネート作３９本の中から、最大5本までを投票するという方法で決められ、９２４票を獲得した「鍵のかかった部屋」(フジテレビ) が栄誉に輝きました。
　また、投票されたＷｅｂ会員の中から１組３名を、プレゼンターとしてギャラクシー賞贈賞式に招待しました。贈賞式ではフジテレビのプロデューサーが登壇し、トロフィー、賞状を受け取りました。

２０１２年度５０周年委員会事業報告

１．２０１３年４月の放送批評懇談会創立５０周年を記念する事業を統括し、推進しました。

２．下記の委員で構成しました。

委員長　　藤田真文
副委員長　　橋本 隆
委員　　入江たのし　川喜田尚　小林 毅
小林英美　嶋田親一　滝野俊一
深川 章

３．５０周年記念事業は以下の通りです。

①記念出版

＜放送批評論文集＞

編集長　藤田真文

編集委員　小林 毅　小林英美　深川 章

「放送批評」「ＧＡＬＡＣ」の論文１００本で構成する記念書籍『放送批評の 50 年』（学文社）の編集作業を行いました。

＜ギャラクシー賞５０年史＞

担当　深川 章

「ギャラクシー賞４０年史」の刊行から１０年。新たな冊子刊行に向け、第４１回～第５０回ギャラクシー賞の記録を編集しました。

②ギャラクシー賞トロフィー刷新

担当　橋本 隆

ギャラクシー賞のシンボルとなるトロフィーのデザインを、松永真氏デザイン「バードマン」に一新するための一連の作業を行いました。

③ギャラクシー賞データベース

担当　川喜田尚　滝野俊一

ギャラクシー賞の記録をデータベース化し、公開に向けた作業を行いました。ギャラクシー賞のデータ整備に関しては、＜ギャラクシー賞５０年史＞と連携しました。

④第５０回ギャラクシー賞贈賞式、
放送批評懇談会創立５０周年記念式典

担当　入江たのし　嶋田親一

第５０回ギャラクシー賞贈賞式および、放送批評懇談会創立５０周年記念式典を企画・実行に向けての作業を行いました。

⑤５０周年記念イベント

「ギャラクシー賞が見つめたテレビ、ラジオ、ＣＭ」の企画

放送批評懇談会創立５０周年記念イベント「ギャラクシー賞が見つめたテレビ、ラジオ、ＣＭ」を企画しました。

第三号議案

放送批評懇談会

２０１２年度収支決算

収　支　計　算　書

2012年4月1日～2013年3月31日まで（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
Ⅰ．収入の部			
1．会費等収入			
会費収入	3,000,000	3,069,150	△ 69,150
維持会費収入	41,000,000	41,335,000	△ 335,000
2．事業収入			
選奨表彰事業収入	28,000,000	30,273,350	△ 2,273,350
企画開催事業収入	3,000,000	2,285,000	715,000
40周年記念収入			0
3．その他の収入			
出版編集事業収入	4,200,000	3,704,399	495,601
広告料収入	5,300,000	4,857,500	442,500
4．雑収入			
保険解約返戻金	1,573,745	1,573,745	0
受取利息	0	138,313	△ 138,313
5．取り崩し収入			
50周年準備特定資産取崩収入	0		0
当期収入合計	86,073,745	87,236,457	△ 1,162,712
Ⅱ．支出の部			
1．事業費			
選奨費	7,000,000	5,996,485	1,003,515
式典費	9,700,000	9,854,608	△ 154,608
企画開催費	2,500,000	2,242,642	257,358
原稿料	7,000,000	6,933,260	66,740
編集費	3,500,000	3,788,287	△ 288,287
雑誌印刷費	16,650,000	16,803,990	△ 153,990
発送費	1,700,000	1,714,509	△ 14,509
2．管理費			
給料手当	17,600,000	16,804,800	795,200
人件費	3,100,000	4,160,158	△ 1,060,158
法定福利費	2,400,000	2,502,351	△ 102,351
福利厚生費	250,000	179,920	70,080
旅費交通費	700,000	677,160	22,840
通信費	850,000	838,100	11,900
資料費	900,000	826,373	73,627
会議費	400,000	341,166	58,834
水道光熱費	330,000	341,471	△ 11,471
事務用品費	100,000	93,726	6,274
消耗品費	500,000	388,339	111,661
備品費	947,700	934,028	13,672
修繕費		0	0
諸印刷費	800,000	631,365	168,635
広報費	800,000	814,540	△ 14,540
支払手数料	230,000	208,268	21,732
賃借料	4,000,000	3,902,995	97,005
保険料	611,796	497,140	114,656
交際費	100,000	260,468	△ 160,468
雑費	1,000,000	763,090	236,910
諸会費	120,000	115,644	4,356
租税公課	80,000	224,900	△ 144,900
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	0
退職金	1,048,860	1,048,860	0
予備費	155,389	0	155,389
当期支出合計	86,073,745	84,888,643	1,185,102
当期収支差額	0	2,347,814	△ 2,347,814

貸　借　対　照　表

2013年3月31日現在(単位:円)

科目	金　　額		
Ⅰ. 資産の部			
1.流動資産			
現金預金	31,638,539		
未収入金	3,107,500		
所有物	286,625		
前払金	69,514		
流動資産合計		35,102,178	
2. 固定資産			
賃借権利金等	32,241		
差入保証金	4,099,500		
特定資産			
志賀基金	89,636,883		
退職給付引当金	21,104,068		
50周年準備引当金	0		
固定資産合計		114,872,692	
資産合計			149,974,870
Ⅱ. 負債の部			
未払金	8,278,411		
前受金	2,325,000		
預り金	794,966		
退職給付引当金	21,104,068		
50周年準備引当金	0		
負債合計			32,502,445
Ⅲ. 正味財産の部			
志賀基金	100,000,000		
その他の正味財産	17,472,425		
正味財産合計			117,472,425
(うち基本金)			0
(うち当期正味財産増加)			-8,225,635
負債及び正味財産合計			149,974,870

正味財産増減計算書

2012年4月1日～2013年3月31日まで（単位：円）

科目	金　　額		
Ⅰ. 増加の部			
1.資産増加額			
前払金増加額	69,514		
現金預金増加額	2,952,043		
2.負債減少額			
50周年引当金減少額	4,644,904		
増加額合計		7,666,461	
Ⅱ. 減少の部			
1.資産減少額			
未収入金減少額	376,000		
賃借権利金減少額	128,961		
特定資産減少額	10,458,316		
2.負債増加額			
未払金増加額	3,333,542		
退職給付引当金増加額	1,000,000		
前受金増加額	270,000		
預り金増加額	325,277		
減少額合計		15,892,096	
当期正味財産増加額			-8,225,635
前期繰越正味財産額			125,698,060
期末正味財産額			117,472,425

50周年特別会計　　収　支　計　算　書

2012年4月1日～2013年3月31日まで（単位：円）

科目	2012予算	決算額	差異
Ⅰ．収入の部			
50周年準備特定資産取崩益	4,644,904	4,644,904	0
志賀基金取崩益	13,355,096	10,573,449	2,781,647
当期収入合計	18,000,000	15,218,353	
Ⅱ．支出の部			
論文集出版	7,000,000	7,287,294	△ 287,294
ギャラクシー賞50年史	1,300,000	436,092	863,908
データベース	1,500,000	1,579,410	△ 79,410
トロフィー刷新	4,800,000	5,644,264	△ 844,264
贈賞式（拡張分）	1,500,000	53,018	1,446,982
関連イベント	1,900,000	218,275	1,681,725
当期支出合計	18,000,000	15,218,353	
当期収支差額	0	0	0

第四号議案

放送批評懇談会

２０１３年度事業計画

２０１３年度総務事業計画

１．５０周年記念事業
５０周年委員会と協力して、５０周年事業を推進します。

２．志賀信夫賞
第５回の選考、表彰を行います。

３．正会員の加入促進
正会員の加入促進に努めます。正会員の増員によって会の基盤を強め、より多彩な活動を支えます。

４．維持会員の加入促進
維持会員の増員によって会の財政基盤を強めることを目指します。

５．広報の強化
放送批評懇談会５０周年のためのパブリシティ活動を強化します。ホームページの拡充に努め、プレスリリース他の広報活動をより積極的に行って、５０周年の周知に当たるとともに、会のイメージアップに努めます。

６．ギャラクシー賞データベース
５０周年記念事業の一つとして開設、６月３日オープンの「ギャラクシー賞データベース」の管理運営に当たります。

７．第１３回「日韓中テレビ制作者フォーラム・無錫（むしゃく）大会」
２０１３年１０月１４日～１７日、中国・無錫で開催される第１３回大会「日韓中テレビ制作者フォーラム・無錫大会」の実行に、放送人の会、放送番組センターとともにあたります。
この大会に正会員、事務局員を派遣して、大会の成功に寄与します。

２０１３年度出版編集事業計画

１．本年度は下記のメンバーで運営します。

委員長	飯田みか
副委員長	川喜田 尚
委員	隈元信一　古賀靖典　鈴木健司 高瀬 毅　高野美穂　田川義博 仲宇佐ゆり　原由美子　吉川邦夫 渡辺久哲
編集スタッフ	中島好登　福島美子　廣保里栄

２．毎月６日に『ＧＡＬＡＣ』を発行します。本年度の運営方針は以下のとおりです。

１）放送に関わるソフト（テレビ番組、ラジオ番組、ＣＭ）やハード（放送行政や産業構造なども含む）を批評することで、放送界を刺激し、日本の放送文化の発展・向上に貢献する「放送批評誌」を目指します。

２）放送コンテンツの送り手と受け手の双方にアピールし、その架け橋となることを目指します。また、送り手・受け手のそれぞれで、読者層の拡大をねらいます。

３）〈特集〉〈連載〉〈ギャラクシー賞関連の頁〉を三本柱とします。特集・連載では時機を得た企画を立て、ギャラクシー賞関連の頁では各選奨事業委員会と連携して、誌面の充実を図ります。

４）発行部数は引き続き約４０００部を見込みますが、図書館への働きかけなどで増部数を目指し、併せて売上額の増加を目指します

５）記事提供を行なうポータルサイトなど、ネットの利用をさらに進め、新規購読者の獲得を図ります。

２０１３年度選奨表彰事業計画

１．２０１３年度は下記の委員構成で運営します。
選奨事業委員長　藤久ミネ
＜テレビ部門委員会＞
委員長　　丹羽美之
副委員長　　中町綾子
委員　　岡田芳枝　河野尚行　滝野俊一　戸田桂太
桧山珠美　藤久ミネ　古川柳子　水島宏明
宮崎美紀子
＜ラジオ部門委員会＞
委員長　　桜井聖子
副委員長　　石原信和
委員　　池本孝慈　茅原良平　近藤倫章　紺野 望
武田三千代　塚本 茂　原 きよ　ペリー荻野
松浦正和　柳瀬博一　山本 索
＜ＣＭ部門委員会＞
委員長　　五井千鶴子
副委員長　　稗田政憲
委員　　秋吉淳一郎　小川幸子　河合良文　草川 衛
田家秀樹　田中秋夫　谷岡理香　千葉健吉
本庄雅之　山家誠一
＜報道活動部門委員会＞
委員長　　鈴木嘉一
副委員長　　市村 元
委員　　稲塚秀孝　小原道雄　加来由子　兼高聖雄
河邑厚徳　福島俊彦　堀川惠子　堀木卓也
宮前周司
＜選奨事業委員会担当事務局＞　福島美子

２．第５１回ギャラクシー賞（２０１３年度）の審査、ならびに贈賞式を行います。

３．２０１３年度の運営方針は以下のとおりです。
第５０回ギャラクシー賞贈賞式を盛会裡に通過し、新たな歩みを進めてまいります。より充実し綿密な選奨活動を企画・実行すると共に、激変するメディア状況のなかでの選奨事業の在り方を、各部門毎に研究・討議して、時代に即

応した活動を模索・実験していきたいと思います。

1）テレビ部門委員会の運営

①あらゆる科学・文化・芸術が活発な批評活動によって発展・向上してきたように、テレビ文化やテレビ・ジャーナリズムが発展・向上していくためには、テレビ番組に対する活発な批評活動が必要不可欠です。ギャラクシー賞テレビ部門はそのような批評の創造・発信拠点となることを目指します。

②毎月、月評会を開催し、「月間賞」を選んで「ＧＡＬＡＣ」に発表します。こうして選ばれた月間賞受賞番組と、年２回（上期・下期）の応募番組を組み合わせて、最終的にギャラクシー賞の選考を行います。テレビの日常性や同時代性に根ざした批評活動を常に目指します。

③地上波放送（キー局・ローカル局）からＢＳ・ＣＳ、ＣＡＴＶまで、また報道やドキュメンタリーから、ドラマやバラエティまで、さらにレギュラー番組から単発の特別番組まで、幅広い視野で現代のテレビに向き合うように心がけます。

④優れたテレビ番組を選奨する活動の一環として、制作者をゲストに招いた番組上映・討論会なども積極的に開催します。定例月評会、ギャラクシー賞贈賞式、上映会を３つの柱にして、テレビ番組の批評活動の輪をより一層広げることを目指します。

2）ラジオ部門委員会の運営

ラジオの動きを側面から支える批評活動となるよう、委員全員で番組批評の質の向上と充実を心掛けます。

毎月１回合評会を開催。全国の番組を試聴し議論したうえで、今後の番組づくりへの提言、ラジオ業界に力を注ぐ人物やトピックスに着目します。

東日本大震災、福島原発事故関連については、各局で日常的に継続している番組や活動の情報を広く集め取り上げていきます。また、コミュティＦＭの番組や活動も積極的に取り上げていきます。これらは「ＧＡＬＡＣ」のラジオ部門のページへ反映させるものであります。

２０１３年度のギャラクシー賞の選考をしていきます。同時に番組形態の変化や、応募状況なども参考にし、部門

別の基準の再考、さらに、コミュティＦＭの応募作品についての評価基準についても議論していきます。

「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、語り合う会」は、優れた作品の紹介が制作者の活力となり、番組の向上とともにギャラクシー賞応募に繋がる重要な会と考えています。過去、１５回の開催を参考に、放送局の枠を超えてラジオ関係者のみならず、ジャーナリスト、メディア専攻の学生など、参加者とってラジオの未来に繋がる意見交換の場となるように努めます。Twitter などを活用し、広報活動を積極的に行います。また、各地（各局）で、入賞作品をあらためて聴ける機会をどのようにしたら出来るかを模索し活動を進めていきます。

３）ＣＭ部門委員会の運営

①デジタル技術の発達により､広告の力が問われています。だからこそ、ポジティブな広告の役割を再確認し、テレビＣＭのパワーと可能性を信じ、時代をリードするテレビＣＭを発掘していきます。

②昨年度からはじめた月１回の合評会は、順調に推移しています。委員各々がリストアップしたテレビＣＭは、その視点が多種多様にわたり、批評精神が「ＧＡＬＡＣ」誌面にも反映されています。なお一層の充実をはかります。

③横ばい、あるいは若干の応募減が続いていたＣＭ部門ですが、昨年度は上期１３５本、下期１４５本、計２８０本の応募があり、応募増のきざしが見えてきました。なお一層の応募増につながる方策を考えます。

④シリーズ作品と長秒数の応募が飛躍的に増加しています。日常目にしている１５秒や３０秒のＣＭではなく、これら作品の応募はギャラクシー賞の選考に多大な影響も予測されます。選考基準の検証をこころみます。

⑤委員１名の辞任により、今年度は欠員１名のまま、上記委員によりＣＭ部門委員会を運営します。

４）報道活動部門委員会の運営

２０１１年度、報道活動部門の審査基準が明文化されました。①テーマや視点の時代性、社会性②取り組みや手法の柔軟性、工夫③取材・調査の精度④活動の継続性、日常性⑤視聴者や聴取者、地域とのコミュニケーション⑥活動が

生み出した成果、影響⑦放送ジャーナリズムとしての意義･意味――という７項目です。こうした尺度に基づいて、２０１３年度も総合的な評価を行ないます。
ギャラクシー賞に報道活動部門が新設されてちょうど１０年を迎えた昨年度、応募本数は２３本を数えました。前年度より１本増えたものの、例年に比べて多いとは言えません。「質」を担保するのは「量」です。この部門をさらに充実させるため、各選奨委員の個人的なネットワークなどを通して、より多くの放送局に参加を促すよう努めたいと考えています。
昨秋、５回目の「ギャラクシー受賞報道活動を見て、制作者と語る会」を日大芸術学部で開催しました。それまでは６本の入賞作すべてを取り上げてきましたが、第５回では「東日本大震災と環境」というテーマに絞り、３作品の制作者らを招きました。今年もこうした方向で１１月ごろの開催を検討しています。

２０１３年度企画開催事業計画

１．２０１３年度は、放送の今日的課題をめぐるシンポジウムの開催をはじめ、テーマを絞ったセミナー・研究会の開催を企画・立案・実施します。

２．本年度の企画事業委員会は、下記の委員で構成します。
委員長　　碓井広義
副委員長　　入江たのし
委員　　安斎茂樹　内田雄一　兼高聖雄　永田俊和
中平良磨　藤田高弘

３．２０１３年度はテレビ放送開始６０周年に当たります。しかし、単純に６０周年を祝っていられる状況ではありません。テレビは文字通りデジタル・メディアの一員となりましたが、その存在意義を含め、まさに原点に立ち返って自らを検証する必要に迫られており、それを踏まえてこれからのテレビのあり方を模索していかなくてはなりません。このような認識のもと、２０１４年３月の大型シンポジウムおよび年数回のセミナーの企画などに取り組んでいきます。

４.事業実施にあたっての基本的方針は､以下の通りとします。
①会の財政を考え当委員会の事業全体としての黒字を目指します。
②他の委員会の企画との有機的な連動を図ります。

２０１３年度マイベストＴＶ賞

プロジェクト事業計画

１．以下のメンバーで運営します。
　プロジェクトリーダー　滝野俊一
　メンバー　　石橋さや夏　永田俊和
　　桧山珠美　※若干名を追加予定
　事務局　　中島好登

２．Ｗｅｂ会員の登録者を増やすべく、関連サイトへの広報活動を強化します。たとえば番組の掲示板やファンサイトなどを積極的に利用し、マイベストＴＶ賞を認知してもらうべく草の根的な活動を行います。また、さらに大学生など若年層の会員を増やすべく、大学関係者へ働きかけます。

３．第６回グランプリで投票協力を行った Yahoo! JAPAN/GyaO! との関係を強化し、認知度のアップに努めます。また、他のポータルサイトとの協力も検討します。

４．Twitter や Facebook などのソーシャルメディアを活用し、会員の募集活動や広報活動を積極的に行います。

５．スマートフォン対策としてマイベストＴＶ賞“アプリ”の作成を検討します。

６．第８回「マイベストＴＶ賞グランプリ」を決定し、第５１回ギャラクシー賞贈賞式で表彰します。また、２０１２年にも実施した特別番組のように、毎月の候補作品に漏れていたレギュラー番組などを選考の対象に入れる試みも引き続き実施します。

２０１３年度５０周年委員会事業計画

１．２０１３年４月の放送批評懇談会創立５０周年を記念する事業を、昨年度に続き統括し、推進します。

２．下記の委員で構成します。
委員長　　藤田真文
副委員長　　橋本 隆
委員　　入江たのし　川喜田尚　小林 毅　小林英美
嶋田親一　滝野俊一　深川 章

３．５０周年記念事業は以下の通りです。
①記念出版
＜放送批評論文集＞
編集長：藤田真文
編集委員：小林 毅　小林英美　深川 章
「放送批評」「ＧＡＬＡＣ」の論文１００本で構成する記念書籍『放送批評の５０年』(学文社) を刊行します（発行日２０１３年６月３日)。
＜ギャラクシー賞５０年史＞
担当　深川 章
昨年度編集作業を行った第４１回～第５０回ギャラクシー賞の記録を刊行します。
②ギャラクシー賞トロフィー刷新
担当　橋本 隆
第５０回ギャラクシー賞からトロフィーを「バードマン」に一新します。あわせて賞状も刷新します。
③ギャラクシー賞データベース
担当　川喜田尚　滝野俊一
昨年度データベース化したギャラクシー賞の記録を、ウェブ上で一般公開します。
（２０１３年６月３日正午オープン）
④第５０回ギャラクシー賞贈賞式、放送批評懇談会創立５０周年記念式典
担当　入江たのし　嶋田親一
２０１３年６月３日、第５０回ギャラクシー賞贈賞式および、放送批評懇談会創立５０周年記念式典を企画・実行します。

⑤５０周年記念イベント

「ギャラクシー賞が見つめたテレビ、ラジオ、ＣＭ」の企画

２０１３年6月２２日・２３日・２９日・３０日、千代田放送会館にて放送批評懇談会創立５０周年記念イベント「ギャラクシー賞が見つめたテレビ、ラジオ、ＣＭ」を実施します。

第五号議案

放送批評懇談会

２０１３年度収支予算

２０１３年度予算案

2013年4月1日～2014年3月31日まで（単位：円）

科目	決算額	2013予算	摘要
Ⅰ．収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	3,069,150	3,000,000	正会員会費
維持会費収入	41,335,000	41,500,000	維持会員会費
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	30,273,350	30,000,000	参加料,贈賞式会費
企画開催事業収入	2,285,000	2,500,000	シンポジウム参加料
40周年記念収入			
3. その他の収入			
出版編集事業収入	3,704,399	4,000,000	ＧＡＬＡＣ販売
広告料収入	4,857,500	5,000,000	ＧＡＬＡＣ広告
4. 雑収入			
保険解約返戻金	1,573,745		
受取利息	138,313		
5. 取り崩し収入			
50周年準備特定資産取崩収入			
当期収入合計	87,236,457	86,000,000	
Ⅱ．支出の部			
1. 事業費			
選奨費	5,996,485	7,000,000	選奨委員会,審査会,見る会聞く会
式典費	9,854,608	10,500,000	ギャラクシー賞贈賞式開催費
企画開催費	2,242,642	2,000,000	シンポジウム開催費
原稿料	6,933,260	7,000,000	ＧＡＬＡＣ原稿料
編集費	3,788,287	4,000,000	ＧＡＬＡＣ編集費
雑誌印刷費	16,803,990	16,650,000	ＧＡＬＡＣ印刷費
発送費	1,714,509	1,700,000	ＧＡＬＡＣ発送費
50周年事業費			
2. 管理費			
給料手当	16,804,800	13,700,000	職員給与
人件費	4,160,158	8,000,000	契約職員,臨時職員経費
法定福利費	2,502,351	1,800,000	社会保険など
福利厚生費	179,920	200,000	職員,委員の時間外作業飲食費
旅費交通費	677,160	700,000	職員,役員交通費
通信費	838,100	850,000	郵便,宅配便,電話,ﾈｯﾄ
資料費	826,373	850,000	スパイダー,新聞,雑誌,書籍
会議費	341,166	350,000	理事会,プロジェクトの会議費用
水道光熱費	341,471	350,000	水道代、電気代
事務用品費	93,726	100,000	事務用品、ＰＣ周辺機器
消耗品費	388,339	400,000	ｺﾋﾟｰ機使用料,日用品
備品費	934,028	500,000	ﾃﾚﾋﾞ,DVD,音響機器,ＰＣ
修繕費	0		修理費用
諸印刷費	631,365	800,000	会員名簿,封筒,名刺など
広報費	814,540	1,100,000	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ、広報、日韓中
支払手数料	208,268	230,000	振込手数料、更新手数料
賃借料	3,902,995	4,260,000	事務所賃借,ｺﾋﾟｰ機ﾚﾝﾀﾙ
保険料	497,140	500,000	職員保険（退職金補填）、火災保険
交際費	260,468	100,000	冠婚葬祭,中元,歳暮
雑費	763,090	1,000,000	税理士,社会保険士
諸会費	115,644	120,000	友好団体加入による会費
租税公課	224,900	90,000	法人税、事業税
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	毎年100万円の積み立て
退職金	1,048,860		
予備費	0	150,000	予備の予算
当期支出合計	84,888,643	86,000,000	

５０周年特別会計　２０１３年度予算案

2013年4月1日～2014年3月31日まで（単位：円）

科目	決算額	2013予算	50周年総額予算
Ⅰ．収入の部			
50周年準備特定資産取崩	4,644,904		4,644,904
志賀基金取崩益	10,573,449	22,078,353	32,651,802
前期繰越		2,781,647	2,781,647
当期収入合計	15,218,353	24,860,000	40,078,353
Ⅱ．支出の部			
論文集出版	7,287,294	2,600,000	9,887,294
ギャラクシー賞50年史	436,092	2,500,000	2,936,092
データベース	1,579,410	800,000	2,379,410
トロフィー刷新	5,644,264	2,250,000	7,894,264
贈賞式（拡張分）	53,018	8,560,000	8,613,018
関連イベント	218,275	8,150,000	8,368,275
当期支出合計	15,218,353	24,860,000	40,078,353
当期収支差額	2,781,647		

ＮＰＯ／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

〒160-0022　東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521　Fax. 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp　http://www.houkon.jp/